

第1回新発田駅前複合施設管理運営図書館専門委員会概要

日時 平成26年7月3日(木) 15時～18時

場所 図書館3階会議室

参加者団体

市からは、駅前複合施設建設室と市立図書館職員7人が参加、専門委員として16団体16人から参加をいただいた。

専門委員の構成団体は、近年図書館と共同で事業実施を行っている17団体で、構成団体名は次のとおり。

新発田市立図書館協議会

新発田市立図書館後援会

無門会

指人形カッパ

おはなしばたぼん

おはなしのとびら

小さな絵本の読み聞かせ アイリス

陽塾0254

新発田市立図書館利用者友の会

新発田市の図書館を考える会

新発田郷土研究会

新発田古文書解読研修会

新発田市立図書館豊浦分館

新発田市立図書館紫雲寺分館

新発田市立図書館加治川分館(欠席)

新発田市立図書館五十公野分館

新発田市立図書館川東分館

—委員会概要—

新発田駅前複合施設について

A：①複合施設の安全性はどのように設計されているのか。②事務所は何階なのか。

③エスカレーターの考え方はなかったのか。(アイリス所属)

駅前：①安全性についてであるが、耐震性は建物の構造が鉄骨であるため揺れを軽減できる。入口に監視カメラを設置して出入り口を管理したい。暗がりにならないよう外灯にも考慮したい。②事務室については3階部分を予定している。こどもセン

ターに係る事務所は2階に設置したい。③エスカレーターは設置しない。

A：複合施設の避難誘導経路は検討しているか。

駅前：建物については消防法や建築基準法に定める防火扉、誘導灯は設置することになる。避難誘導経路は専門委員会の意見を踏まえて決定していきたい。

B：複合施設には太陽光パネルは付いているのか。(指人形カッパ所属)

駅前：太陽光パネルは付いていない。エネルギー効率も検討した結果、ガス空調を目指していきたいとの基本設計になっている。

C：新図書館では学習スペースがどのくらい確保されているのか。(図書館利用者友の会所属)

駅前：基本設計の段階では1階の多目的室で他の利用がない場合は優先的に学習スペースとしたい。設計の段階では約100名が入れる見込みである。3階部分では窓側のテーブルや丸テーブルでも学習可能である。現図書館の座席数117席に対して、新図書館の座席数は470席(こどもの座席数も含む)となっている。

C：試験期間中は優先的に学習スペースとして利用させてほしい。

駅前：それについては管理運営ワークショップや当委員会でご意見を頂ければと思っている。

D：①駅前の複合施設に入る図書館は分館であって、本館は現図書館となるのか。

②図書館に対する要望は何かあったか。③駅前から新発田城までの動線を考えているのか。(五十公野分館所属)

図書館：①現図書館の在り方についてはこれから詰めていきたい。

駅前：②運用、事業、役割、方法についてはワークショップや当委員会でも補足していきたい。

③新発田川、清水谷地区の整備により歩いて行きたくなるような回遊性を作り出すことも有効的である。駅前から新発田城だけではなく新発田城から駅前へ来ていただくこともあると思うので繋ぐとは双方向的なものを意味している。

D：今後の計画には具体的な図書館の事業や複合施設と他への導線を書いてほしい。

図書館：意見としてお聞きする。

E：①複合施設が建設される場所は適切なところなのか。

②旧生鮮市場になぜ複合施設を建設しないのか。(陽塾0254所属)

駅前：①複合施設は民間棟と行政棟からなり、民間棟は通りに近いところ、行政棟は緑が多い周辺の景観の良さを考慮してお示した図のとおりとなった。

②駅前が交通の結節点であり、その優位性を活かすため旧生鮮市場ではなく、

駅前を選択した。

C：図書館の所管は教育委員会ということなのか。(図書館利用者友の会所属)

図書館：現時点においては教育委員会が所管という考えである。

F：キッチンスタジオ、こどもセンターの所管は市長部局になるのか。(おはなしのど
びら所属)

駅前：キッチンスタジオ、こどもセンターについても教育委員会部局になるとの想定で
ある。

管理運営について

副委：まちづくりコーディネーターの役割は何か。(新発田市立図書館協議会)

駅前：複合施設のつなぎ役、民間棟や行政棟のつなぎ役である。

副委：市職員が担当するのか。

駅前：専門家をお願いしたい。雇用形態は今後検討する。

F：まちづくりコーディネーターはどんな専門性を持った人なのか。(おはなしのど
びら所属)

駅前：特殊な資格を有していないが、パイプ役ができる方。

C：サポート組織とは複合施設全体を指すのか。(図書館利用者友の会所属)

駅前：複合施設全体のサポート組織という位置付けである。

C：図書館の専門委員会でサポート組織はどの程度まで話すことができるのか。

駅前：図書館でボランティア活動されている方々から「こうすればうまく行く」とい
うような意見を頂戴したい。

副委：ここは図書館の専門委員会であり、複合施設全体のサポート組織の話はできな
いので、図書館の中でサポーターにはどんなものがあるかについて意見を出せば
よいのか。

駅前：はい。

委員長：サポート組織は図書館に特定して委員から意見を出していただきたい。

D：コミュニティセンターと駅前複合施設の違いを出してほしい。(五十公野分館所属)

図書館：今まで縦割りのだったものを、繋ぐということで連携を図っていくというもので、
お配りした資料では分かりにくいかもしれないが、ご意見をいただいて分かりや

すい方針を策定したい。

C：専門委員会で専門家を招いて勉強するという事も検討してほしい。(図書館利用者友の会所属)

図書館：ご要望ですか。貴重な意見ありがとうございます。

副委：繋ぐとはハブ空港的なイメージであって、何でも繋がる意味ではないのでは。(新発田市立図書館協議会)

図書館：分館、学校の図書館との繋がりの中での図書館でもあり、触媒ということで図書館自身も変わっていく。

意見

G：専門委員会の意見を聞いてから考えていくという答弁が多かったので、専門委員会で学習を深めて、市に意見を聞いてもらえるような場にしていただきたい。(新発田市の図書館を考える会所属)

C：図書館に色々な思いを持っているが、年齢的にボランティア活動が無理な人の意見も聞く機会を作るべきである。(図書館利用者友の会所属)

その他

この後、事業プログラム等について、事業実施の考え方、運営協議会での協議を実施することなどについて説明。

—質問等なし—

いただいた意見を、市の検討部門であるワーキンググループに伝えるということ、管理運営のワークショップが8月9日に開催されること、えんぱーく館長の講演などがあることを周知し、終了。